

日本人学生とトルコ人学生の依頼行動の分析

——相手配慮の視点から——

アクドーン・プナル*

大浜 るい子**

キーワード：依頼，相手配慮，日本語とトルコ語の対照研究，ロールプレイ，意味公式

要 旨

本稿は、日本人学生とトルコ人学生による依頼のロールプレイ会話を用いて、日本語とトルコ語の依頼行動を相手配慮という視点から分析し、その共通点と相違点を明らかにしたものである。

本分析から明らかになったことは以下の点である。(1) 日本語はトルコ語に比べ同じことの繰り返しが多く、実質的な内容に乏しい。(2) 被依頼者の行動は日トで大差はなかったが、依頼者の方に大きな違いが見られた。日本語は直接的な依頼が多く、トルコ語は状況確認や事情説明による間接的な依頼が多かった。(3) 日本語では「受け入れに対して障害になる事情」が述べられた後も、直接依頼が行なわれたが、トルコ語では同じ状況で直接依頼はなされなかった。(4) 依頼の表現形式としては、日本語では直接形が、トルコ語では間接形が多く使用された。(5) トルコ語に多かった状況確認や事情説明は、数量のみならず内容的にも日本語とは異なり開示情報が豊かであった。(6) 「受け入れ後の感謝とその返答」については、トルコ語では定型の挨拶が行なわれたが、日本語ではそれは少なく、一見依頼のやり直しのようやりとりが見られた。

本分析によって明らかになったことは、トルコ人日本語学習者と日本語母語話者の間でどのような誤解が生じ得、またどのような点に注意すればスムーズなコミュニケーションができるかについて、日本語教育に示唆するところがあるものと思われる。ただし、ここで明らかになったことは、従来日本人の行動として指摘されてきた「相手への配慮重視」とは矛盾するような結果でもあった。日本人の言語行動としてどちらの行動がより事実に近いのか、あるいはどちらも日本人の言語行動の一面を表しているのか、興味深いところである。もし後者であれば、今後これらを互いに関連付け、矛盾なく両方の傾向を説明できる枠組みが求められなければならないだろう。

1. はじめに

日本語はトルコ語にはない複雑な敬語体系をもつ言語である。そのため、トルコ人日本語学習

*AKDOĞAN Pınar：広島大学大学院教育学研究科博士後期課程

**OHAMA Ruiko：広島大学大学院教育学研究科教員

者は、日本語は相手への配慮を重視する言語であるという印象をもつ。また日本人の言語行動を他言語社会のそれと比較した研究からも、そのような印象を強くすることが多い(柳 2004, 巖 1999, 梁 1999 等)。しかし、実際に日本に来て多くの日本人と接触する機会が増えると、時に日本人の直接的な発話や行動に戸惑いを感じることもある。たとえば、期待していた挨拶がなかったり、「感謝」した時に「いいえどういたしまして」という「感謝に対する返答」がなかったりする時である。母国でコミュニケーションをする際に当たり前だと思っていたことが日本人との会話で見られないのである。このような経験と、先行研究で指摘される日本人の「相手への配慮重視」という傾向のどちらが本当の日本人の言語行動なのか、あるいはいずれも本当の姿を現しており、それらがどこかで互いに矛盾なく統合されているのか、興味を引かれた。

日本人の言語行動をトルコ人のそれと直接比較したものは、ほとんどない。そこで本研究では、代表的な FTA (face-threatening act) である「依頼場面」を取りあげ、日本語とトルコ語の依頼行動の共通点と相違点を明らかにし、両社会でどのような言語行動規範が重視されているかを解明するきっかけとしたいと思う。そのことによって、日ト間の異文化間コミュニケーションにおいて、どのような問題が起こり得、それらを互いにどのように理解することが必要であるかを明らかにしていくことに貢献したいと考えている。

2. 分析データについて

言語行動に関する対照研究では、談話完成テスト (DCT: Discourse Completion Test)、自然談話あるいはロールプレイによる会話の観察等が主に用いられている。談話完成テストは、一度に大量のデータを収集できることから広く採用されている方法であるが、話し言葉を書かせる不自然さの他に、回答欄のスペースに応答の長さが制限されることや、使いなれた表現やフォーマルな形式が選ばれやすいなどの欠点があることも指摘されている (Rintell 他 1989: 250)。また自然会話は実際の話し言葉を分析対象にしている点で、データの信頼性は高いものの、調査対象者の変数をコントロールすることが難しく、同種のデータ収集が困難であるという欠点がある。

そこで本研究では、同種の依頼会話を一定量得るため、自然会話に近い形式であるロールプレイによる会話収集という方法を採用した。調査者が調査対象者を設定して変数のコントロールが行えることと、分析対象とする発話行為が実現される場面を調査者がコントロールできることがロールプレイの最大の利点であると言える。

調査対象者には、トルコ語母語話者 (以後トルコ人とする) 36 名 (女性 19 名, 男性 17 名) と日本語母語話者 (以後日本人とする) 36 名 (女性 19 名, 男性 17 名) を選んだ。調査対象者の年齢は、日本人とトルコ人いずれも 21 才から 29 才までで、全員大学の学部生や院生であった。トルコ人は調査当時日本に居住しており、日本滞在年数は 2 年から 3 年の間であった。調査

は、2006年7月から12月にかけて、広島、岡山の両県で行った。

調査対象者にはトルコ人同士、日本人同士で2人1組（互いに友人関係）になり、3種類の依頼会話を実施してもらい、これを録音した。ロールプレイの会話者の関係は「親しい友人同士」とした。この設定は日本人との会話で筆者が特に違和感をもつもので、特にこの間柄の会話の仕方を観察したいと考えたからである。場面は以下の3場面を提示したが、いずれも大学生が日常比較的よく経験するであろうとの判断から、これらを選んだ。また、会話者にはできるだけ自然な会話をするよう求めた。分析対象とする会話数は日ト各54会話（18組×3場面）、合計108会話である。各場面のロールプレイ状況は概略以下のとおりであった。

「場面1」依頼者役割には：ある学会の会費を払いに行く途中、財布を忘れてきたことに気づきました。払い込みの締め切りは今日です。そこへBさんが通りかかったので、Bさんに3千円（ト：40リラ）貸してもらうように頼んでください。被依頼者役割には：Aさんの話を聞いてあなたなりに対応してください。

「場面2」依頼者役割には：あなたは、今晚7時から始まるお花見会（ト：ピクニック）のリーダーです。7時までに花見の買い物をすませておかなければいけません。しかし、急に用事ができました。お花見会には出席できますが、買い物に行けません。それでBさんに買い物をお願いしてください。他の人にも頼みましたが断られ、Bさん以外に頼める人はいません。被依頼者役割には：今晚7時からお花見です。あなたは6時30分までバイトがあり、その後でお花見に行く予定です。Aさんの話を聞いてあなたなりに対応してください。

「場面3」依頼者役割には：あなたは日曜日に新しいマンションに引っ越します。これからBさんに引越しを手伝ってくれるようお願いしてください。他の人にも頼みましたが断られ、Bさん以外に頼める人はいません。被依頼者役割には：あなたは日曜日は昼まで部活があります。午後の予定はまだ立てていません。Aさんの話を聞いてあなたなりに対応してください。

各場面は負担の大きさやその後の心配の有無などにより同列ではなく、場面によって異なる特徴が認められるものと思われるが、本稿では場面間の違いは取り上げず、3場面を一括して日ト間の差異に焦点をあて、考察する。

3. 分析方法と意味公式の分類

分析対象としたのは、各会話における依頼の開始部分から依頼受諾後の感謝までとし、その間の発話内容をBeebe他（1990）の「意味公式」を参考にして分類した。使用された意味公式は表1に示す通りであった。なお、多くは1ターンに一つの意味公式であったが、中には例1のよう

に1ターンが複数の意味公式からなっている場合もあった。

例1 あした絶対返すから、3千円貸してくれない？ (日本語会話 J-4)

「情報提供」

「依頼表現」

表1¹ 日トの意味公式の分類

(S1, S2, S3: 場面1, 2, 3を示す。網掛けは依頼者の、網掛けなしは被依頼者の意味公式を示す。)

意味公式	発 話 例	
	日 本 語	トルコ語
依頼を導入する表現	S1 ちょっとお願いがあるんだけど	S3 Benim bir isteğim olacak. (お願いがある)
前置表現	S3 今ピンチやけどさ	S1 Sorma feci durumdayım. (すぐたいへんよ)
依頼のための状況確認	S2 今日花見行くよね	S2 Pikniğe gidiyorsun demi? (ピクニックに行くよね)
情報提供	S3 日曜日に引っ越すんだ	S3 Pazar günü taşıyorum. (日曜日に引っ越すの)
情報要求	S3 何時ぐらいに引っ越す予定?	S3 Ne zaman taşınma? (引越しはいつ?)
依頼表現	S3 ちょっと手伝って	S3 Yardım edebilir misin? (手伝ってもらえる?)
障害になる事情説明	S2 6時半までバイトがあって	S2 Altı buçuğa kadar işim var. (6時半まで用事がある)
受け入れを暗示する情報	S1 3千円持っているよ	S1 40 Lira var herhalde. (40リラあると思う)
受け入れ表明	S2 じゃ、行く	S2 Tamam yaparım alışverişi. (うん、買い物する)
感謝	S1 ありがとう	S1 Teşekkürler. (ありがとう)
感謝に対する返答	S2 いいえ	S2 Rica ederim. (どういたしまして)

4. 分 析

以下の分析は、まず4-1.で意味公式の総数を日トで比較し、全体的な傾向を述べる。次に4-2.において各意味公式別の使用数を日トで比較し、依頼会話が両社会でどのような展開をするかを見る。そして4-3.と4-4.では、日本人学生の会話により多く見られた意味公式「依頼表現」について、その出現位置と表現形式を日トで比較する。4-5.ではトルコ人学生の会話により多く見られた意味公式の中から特に多かった「依頼のための状況確認」と「情報提供」について、内容別に日トで比較する。最後に4-6.で依頼受け入れ後のやりとり、すなわち「感謝」と「感謝に対する返答」についてその差異を見る。

4-1. 意味公式の出現頻度

表2は、日ト各54会話に現れた各意味公式別の出現数を示したものである。全会話中に使用

¹ トルコ語の表現は、トルコ語の正書法に従って引用する。

表2 日トの意味公式の出現頻度

() 内の数字は、同じ意味公式の繰り返しを別に集計したもの。

	依頼を導入する表現	前置表現	依頼のための状況確認	情報提供	情報要求	依頼表現	障害になる事情説明	受け入れを暗示する情報	受け入れ表明	感謝	感謝に対する返答	合計
日本語	7	9	38	241	56	102	56	47	53	42	21	672
意味公式数			(25)	(63)	(90)	(85)	(12)	(7)	(63)			(345)
1会話平均	0.1	0.2	0.7	4.5	1.0	1.9	1.0	0.9	1.0	0.8	0.4	
トルコ語	1	23	79	486	100	40	72	53	54	92	57	1057
意味公式数			(2)	(17)	(31)	(6)	(2)		(18)			(76)
1会話平均	0.0	0.4	1.5	9.0	1.9	0.7	1.3	1.0	1.0	1.7	1.1	

された意味公式の総数は日：1017，ト：1133（1会話あたり日：18.8，ト：21.0）とほぼ同数で、日トいずれの会話も同程度数の意味公式から構成されていたと言える。しかし、これらの中には例2の下線に示すように、同じ意味公式の繰り返しと思われるものが多数あり、特に日本語会話にはその傾向が顕著であった（日：345，ト：76）。表2では（ ）内にその数を別に集計した。

例2 日本語会話 J-16

- 389IJ 3千円貸してや
 390KL 3千円？
 391IJ うん
 392KL 3千円？
 393IJ うん，3千円．すぐ返すけん．終わったら
 394KL マジで？
 395IJ うん，あした．あしたの．学校で返すけん
 396KL うん
 397IJ オッケー？
 398KL うん
 399IJ マジで？
 400KL うん
 401IJ ああ，ありがとう．マジ？

402KL うん
403IJ 助かるわ

これら繰り返しと思われるものの取り扱いについては、それを相づち的なものとし、非実質的なものととらえるか、確認要求や説明要求と見なし実質的なものととらえるかについては議論のあるところである²が、ここでは実質的な確認要求や説明要求とするには数が多すぎるという大浜（2006）に従い非実質的なものとする。今仮にそれらを除外し、実質的な意味公式のみを比較すると、日：672，ト：1057（1会話あたり日：12.4，ト：19.6）となり、日本語会話はトルコ語会話の約6割程度の意味公式しか使用していないことになる。日本語会話はトルコ語会話に比べ同じことの繰り返しが多く、実質的な内容に乏しいといえることができる。

4.2. 日トの使用意味公式比較

以下では、非実質的なものと見なした繰り返しの部分を除き、実質的な意味公式についてのみ、それぞれの使用数を日トで比較する。意味公式別の使用数を1会話あたりに換算し（表2の日ト各最下段参照）、会話の構成要素として日トで比較すると、それぞれの会話は概略図1に示す通りであった。

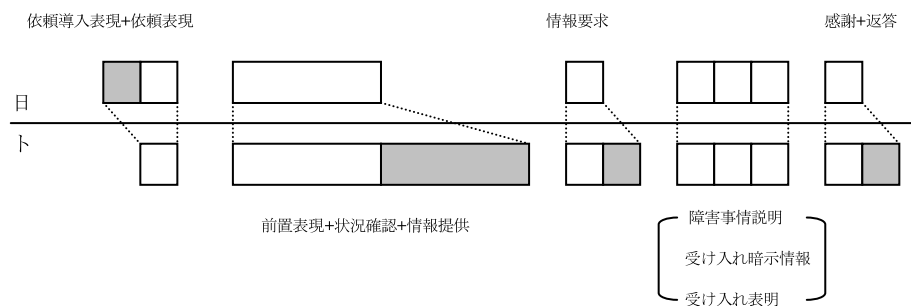


図1 1会話を構成する意味公式別の使用数の日ト比較

網かけは他方の言語より多く使用された部分を示す。箱の大きさは概ね使用数に対応している³。

意味公式の中には日トに同程度見られたものと、日トのどちらかにより多く見られたものがあった。

まず日トで同程度数見られた「意味公式」は、「(受け入れに対して) 障害になる事情説明」

² 「繰り返し」と「言い換え」を相づちの一種として取り上げるか、確認要求や説明要求として取り上げるかについて、より詳しくは大浜（2006）を参照されたい。

³ 箱の大きさはあくまで目安。正確な数字は表2を参照されたい。

(日：56/ト：72)と、「受け入れを暗示する情報」(日：47/ト：53)、「受け入れ表明」(日：53/ト：54)で、いずれも被依頼者が使用した意味公式であった。会話数は日トそれぞれ54件であったので、これらの意味公式はどの会話でもほぼ1回使用されたといえることができる。日トいずれにおいても被依頼者は一度は受け入れ困難な事情を述べる（特に場面2, 3ではロールカードに受け入れ困難な事情があることが示されていた）ものの、その後受け入れ可能性があることを示し、最後に受け入れるという展開を作っていたと言える。

しかし、これら以外の意味公式は、日トで使用に大きな差異があった。日本語会話に多く見られた意味公式は依頼者の「依頼を導入する表現」⁴(日：7/ト：1)と「依頼の直接表現」(日：102/ト：40)で、トルコ語会話に多かったのは「前置表現」(日：9/ト：23)、「依頼のための状況確認」(日：38/ト：79)、「情報提供」(日：241/ト：486)、「情報要求」(日：56/ト：100)であった。「感謝」と「その返答」については4.6で述べる。

日本語会話に多かった2つの意味公式はいずれも明示的に依頼を表す意味公式である。本会話がそもそも「依頼会話」であるので、これらの意味公式が使用されて当然とも考えられる（日本語会話では1会話あたり約1.9回の使用）のに、トルコ語会話では必ずしも全ての会話に使用されていない（1会話あたり0.7回）。トルコ語会話では依頼をする代わりに、「前置表現」(日：9/ト：23)や「依頼のための状況確認」(日：38/ト：79)、「情報提供」(日：241/ト：486)などが多く使用された。「前置表現」や「依頼のための状況確認」は依頼先行語句（レビンソン1990：441）であり、また1会話あたり9回も使用された「情報提供」は、依頼をしなけりばならなくなった状況についての説明であったことから、トルコ語会話ではこれらの意味公式を用いることによって間接的な依頼を行っていたと考えられる。日本語会話の明示的直接的な依頼とは対照的である。

4-3. 日トに見られた「依頼表現」の出現位置

4-2.で、「依頼表現」は日本語会話により多く使用されていた（トルコ語会話の2.6倍）ことを述べたが、他方でトルコ語会話でも1会話あたり0.7個の使用があり、トルコ語会話で「依頼表現」が使用されなかったわけではない。日トにおいて、これらの意味公式がどのようなプロセスの中で使用されたかを見ると、大きな違いがあった。表3は、会話中の最初の依頼行為時と被依頼者から「受け入れに対して障害になる事情」が述べられた後の再依頼行為時での「依頼表現」の使用数を示したものである。

表3を見ると、会話の中で最初に依頼をする場合、トルコ語でも54会話中35会話で、日本語

4 「お願いがある」や「頼みたいことがある」などの「依頼を導入する表現」は猪崎（1999）や柳（2004）では日本語の特徴として頻出すると述べられているが、本データでは54会話中7会話で見られるのみであった。

表3 日ト各54会話中の「依頼表現」の出現位置

	日本語	トルコ語
最初の依頼時	(53 会話で) 57 回	(35 会話で) 37 回
障害になる事情が述べられた後の再依頼時	(37 会話で) 45 回	(3 会話で) 3 回
合計	(53 会話で) 102 回	(35 会話で) 40 回

同様「依頼表現」を使用していることがわかる。日トの違いは、被依頼者が「受け入れに対して障害になる事情」を述べた後の振る舞い方である。日本語では全54組の会話のうち37組の会話で、「受け入れに対して障害になる事情」が述べられた後も「貸してもらえる?」「貸して!」などの「依頼表現」が見られた。一方、同様な場面でトルコ語では54組の会話のうち3組の会話でしか再依頼する表現は見られていない。その代わりに「依頼のための状況確認」、「情報提供」の表現が繰り返し見られた(例3, 4参照)。トルコ語では、たとえ親しい間柄であっても、依頼は被依頼者の邪魔されたくないというネガティブ・フェイスを脅かすことになるため、依頼者は直接依頼をすることを避け、相手のネガティブ・フェイスを保ちつつ自分の要求を満たそうとしていると思われる。一方日本語では、トルコ語に比べると親しい間柄では、相手のフェイスへの侵害に対する緩和方略がそれほど用いられていないように思われる。

例3 日本語会話 J-10

- 391S だからちょっとそこの買出し的なのをお願いしたいよね 「依頼表現」
 392T なるほどね。今日ね6時半までバイトあるんやけどさ 「障害になる事情」
 393S 6時半に終わって
 394T 終わって
 395S 6時半から買い物行って 「再び依頼する」

例4 トルコ語会話 T-11

- 103A Eger senin vaktin varsa benim yerime alışverişe gidebilir misin? 「依頼表現」
 もし時間があれば私の代わりに買い物に行ってくれる?
 104E Ya benim altı buçuğa kadar işim var. 「障害になる事情」
 6時半まで用事がある
 105A Bu kötü oldu ya. Benimde alışverişe gitme şansım hiç yok. 「情報提供」
 それは困ったね。私も買い物に行くチャンスはまったくない

4-4. 日トの依頼表現形式の比較

次に、日トで使用された依頼表現形式を比較する。Blum-Kulka 他 (1989) によれば、言語によって細かい形式には差はあるものの、どの言語でも直接的な形式、慣習的な間接形、非慣習的な間接形（ヒント）の3タイプに大別され、要求表現の形式には普遍的な部分があると言う。日本語の依頼表現について、岡本 (2001) は、「V+て（窓を開けて）」「V+てくれ（窓を開けてくれ）」「V+てください（窓を開けて下さい）」などの文末に置かれる形式を「直接的形式」、要求を間接的に表す「V+たい（窓を開けてもらいたい（けど／が）」「V+ほしい（窓を開けてほしい（けど／が）」「V+て形+補助動詞（窓を開けてくれる／もらえる）」「V+てもいい（窓を開けてもらってもいい）」などを慣習的な間接的形式、「タイヤがパンクしたんですが」のような一

表4 日トの依頼表現形式の分類とその使用数比較 (%)

		日本語表現	小計	計*	トルコ語表現	小計	計
直接形式	直接依頼形	V+て	21	33 (32.4)			
		V+てください	1				
		お願いします	11				
慣習的な間接形式	肯定疑問形	V+できる	4	33 (32.4)	—ebil/—abil+mi 可能形+疑問詞	21	29 (72.5)
		V+てもいい	13		—ir/—er+mi 超越形+疑問詞	5	
		V+もらえる	10		—en+mümkün+mü 超越形+可能形+疑問詞	3	
		V+くれる	6				
	否定疑問形	V+もらえない	1	20 (19.6)			
		V+くれない	14				
		V+できない	5				
	願望形**	V+たい（けど、が）	9	16 (15.7)	Rica edeyim diye düşündüm お願いしようと思って	7	7 (17.5)
		V+ほしい（けど、が）	7				
	ほめ形				İyilik yaparsın 良いことをしてくれる	2	4 (10.0)
					Beni reddetmezsin 私を断らない	2	
	合計			102			40

*：小数点2位以下を4捨5入したため、合計が100%になっていないところがある。

**：この分類の日本語とトルコ語は必ずしも対応していないが、トルコ語の例が依頼者の願望を表現しているとの判断から、このグループに入れた。

般に要求であることを明示する度合いが低い表現をヒントとして挙げている。

トルコ語にも、「Kapıyı aç.(Open the door.)」や「Kapıyı açsana.(Open the door, please.)」を用いる直接表現と「Kapıyı açabilir misin?(Can you open the door?)」、「Kapıyı açar mısın?(Will you open the door?)」のような動詞に付加される疑問形を用いた慣習的な間接的形式、そして「Burası çok sıcak.(It's hot in here.)」のような非慣習的な間接形(ヒント)が存在している(Kahraman 2006)。

表4は、岡本(2001)、Kahraman(2006)を参考にし、日トで使用された依頼表現形式(日:102, ト:40)を分類し、タイプ別にそれらの使用数をまとめたものである。

表4から以下のことが読みとれる。

- (1) 日本語会話では、「3千円貸して」「引越し手伝って」「お願いします」のような直接的な形式が依頼表現全体の32.4%を占めたが、トルコ語会話では直接形式は全く使用されていない。
- (2) トルコ語会話で最も多く見られた間接形式は可能形を疑問文にしたものであった。動詞語幹 gitmek (go) に *-ebil* という可能形と *misin* という疑問詞が付加されることによって「*gidebilir misin?(Can you go?)*」という間接的な依頼表現が成立する。この表現は、「間接的な形式」の中で、間接性レベルが高い表現であるため、目上に対してよく使われる表現(Işık 2003)である。しかし、Dikilitaş(2004)は、トルコ人友人同士と学生先生間の依頼表現について調査しているが、友人に対しても先生に対しても「可能形の疑問文」を最も多く使っていたと報告している。本調査でもそれが裏付けられている。「可能形の疑問文」に次いで多く見られた形式は「超越形の疑問文」と超越形の疑問文に付加されている「*mümkün mü (possible)*」であった。これは英語の「*Will you go shopping?*」や「*If it is possible will you go shopping?*」に対応する表現である。これらの表現形式は直接的表現と違って、話し手の要求意図を緩和して表出する機能があると言える。
- (3) 日トに共通した緩和方略として、「疑問文を使用する」があるが、日本語会話にはトルコ語会話にないその他の緩和方略(授受の補助動詞を使用する、否定疑問文にする、言いさしにする)が使用されている。
- (4) トルコ語会話には、相手をほめ、機嫌をとることで依頼をする表現「*Biliyorum beni hiç reddetmezsin.(I know you never refuse me.)*」「*Eminim bana bir iyilik yaparsın.(I am sure you do me a favor.)*」があったが、日本語会話には見られなかった。

日本語会話とトルコ語会話の依頼表現形式を比較した結果をまとめると次のようなことが言える。日本語会話には依頼の緩和表現が多種類認められるが、トルコ語会話では可能形あるいは超越形の疑問文のみであった。そのような事情から、日本語会話では相手配慮が重視され、そのような表現も豊富にあるという印象がもたれるかもしれないが、むしろ日本語会話ではトルコ語会話に比較して「依頼表現」の意味公式が多く、その際の表現形式も直接形が使用されていたとい

う結果の方が重要であろうと思われる。

4-5. 「状況確認」と「情報提供」について

次にトルコ語会話により多く見られた意味公式の内、特に数量の多かった「情報提供」と「依頼のための状況確認」を中心に見ていきたいと思う。この他に「前置表現」や「情報要求」もトルコ語会話に多かったが、前者は内容的に日トで大差がなく、また後者は情報提供を促すものであるから、情報提供を見ていくことでカバーできると考える。「情報提供」と「状況確認」は、その使用数に大きな差異があったことは既に述べたが、内容的にも大いに異なっていた。

「情報提供」として日トで共通していたのは、以下に示すようにその多くがロールカードで与えられた情報であった（ロールカードに示されていない情報は「用事が終わればお金を返す」のみ）。

場面1：「財布を忘れた」「今日は学会会費の締め切り日である」「用事が終わればお金を返す」

場面2：「自分は花見のリーダーである」「用事ができて買い物に行けない」「他の人にも頼んだが断られた」「あなたしか頼める人はいない」

場面3：「日曜日に引っ越しをする」「他の友人に頼んだが断られた」「あなたしか頼める人はいない」

しかし、これ以外に会話者が自由に創作した情報があり、それらは日トで大きく異なっていた。まず日本人学生の会話では「何を買うかについてBにまかせる（場面2）」と「もし間に合わなければ、開始時間を遅らせてもよい（場面2）」「なぜ引っ越し業者を頼まないかの理由（場面3）」の3種類のみであったのに対し、トルコ人学生の会話では以下に示すように、3場面共に様々な種類の情報が提供されていた。

場面1：財布を忘れた理由（急いでいた／カバンを変えたなど）

今日まで会費を払わなかった理由（授業が忙しかった／用事があったなど）

財布をとりかえられない理由（銀行が間もなく閉まる／家が遠い／家に帰るのが面倒／雨が降っている／寒い／早く用事を済ませたいなど）

会費を今日中に払わなかった時の結果（発表ができなくなる／学会から除名される／先生に怒られるなど）

場面2：用事の内容を述べる（先生との約束ができた／講義が入ったなど）

買い物のリストとお金を準備していることを述べる

相手の物理的負担を軽減するための提案をする（タクシーで行ってもらう／自分の車を貸す／後でスーパーへ迎えに行くなど）

他の人に頼めない理由（アルバイトがあるなど）

花見の時間は変更できない

場面3：引っ越し理由（大家さんとのトラブル／学校までの距離が遠く不便など）

新しい引っ越し先の場所や特徴（スーパーに近い／部屋数／家賃など）

他の人に頼めない理由（アルバイトがあるなど）

手伝いの内容（運ぶだけでいい／車を出してほしいなど）

「依頼のための状況確認」についても「花見に行くかどうか」「日曜日に時間があるかどうか」などは日トで共通に見られたが、「お金を持っているかどうか」「最近忙しいかどうか」「体調がどうか」などはトルコ語会話のみに現れた。

これらを見ると、トルコ人学生は日本人学生に比べて自分自身の現在の状態やそれに至る事情、また予測される結果あるいは場面3では新居の詳細な説明などをし、また相手が依頼を引き受けることが可能かどうか、その状況を何度も確認していることがわかる。これらは、一方で相手が依頼を引き受けることができない場合を想定し、相手のフェイスを気づかいながら、他方で相手に自分のことを十分に理解してもらい、その上で相手から手助けの申し出をしてもらうことを期待しているように思われる。また特に場面2では、相手の負担を軽減すべく、「買い物リストを準備する」や「お金を前もって渡す」「車の手配をする」など、配慮がなされている。このような点から日本人学生の会話を見ると、「あなたの好きなものを買ってよい」と言われるものの、実は何をかうか自分で考えなければならないことや、お金のことが話題にならないため自分で支払っておかなければならないなど、配慮のある行為であるとは言えないだろう⁵。

4-6. 「感謝」と「感謝に対する返答」

最後に「感謝」と「感謝に対する返答」について見る。依頼が受け入れられた後の「感謝」と「感謝に対する返答」は、トルコ語会話では1会話あたり1.7回と1.1回で、どの会話にも必ず現れていたが、日本語会話では0.8回と0.4回で、感謝が表明されない会話があり、また感謝が表明されてもそれへの「返答」が見られない会話が半数以上であった。実際には、例えば例5、6のようなやりとりが行なわれた。

例5 トルコ語会話 T-8

27S Olur. Gider gelirim alışverişe.

「受け入れ表明」

いいよ。買い物に行ってくる

⁵ もう一点注目したいことは、日本人学生の会話ではどうも時間が間に合わないと考え、「じゃ、7時半からにしよう」などと会話者だけで花見の開始時間を変更していたが、トルコ語会話では相手から「間に合わないかもしれない」と言われても「できるだけ間に合わせて」等と変更ができないことを述べていた。決定事項の取り扱い方に違いがあるのかもしれないが、本稿のテーマとは直接関わらないものと考え、注でその事実のみ示しておくことにする。

28Z	<u>Cok teşekkür ederim.</u> <u>どうもありがとう</u>	「感謝」
29S	<u>Rica ederim.</u> <u>どういたしまして</u>	「感謝に対する返答」
例6 日本語会話 J-12		
364X	いいよ	「受け入れ表明」
365W	ああ、 <u>本当に？</u>	「確認要求」
366X	うん	「受け入れ再表示 ⁶ 」
367W	大変だけどちょっと <u>手伝ってもらってもいいかな</u>	「依頼の繰り返し」
368X	いいよ	「受け入れ再表示」
369W	じゃ、 <u>お願いします</u>	「依頼の繰り返し」
370X	はい	「返答」

これを見ると、トルコ人学生の場合は、我々が感謝とその返答として思い描く典型的なやりとりであるが、日本人学生の場合は「受け入れ」が表明された後、「感謝」の代わりに「確認要求」と「依頼の繰り返し」を行なっている。それらの使用比は、明示的な感謝表現42件、確認要求36件、依頼の繰り返し49件であった（表2では依頼表現の（ ）内に示した85件が後2者に対応している）。ここから言えることは、感謝が期待される局面で明示的にそれが行なわれたのは約3分の1程度であったということである。これを見る限り、日本人学生は依頼を受け入れてもらっても必ずしも感謝をしないとと言えるかもしれない。

ただ日本人学生の会話では、受け入れ表明後のみならず、依頼が行なわれた後、あるいは情報提供が行なわれた後など、会話中の様々な局面で既に述べたことが度々繰り返されている(4-1. 参照)。これがどのような機能を果たしているのか、またどのような行動規範の元でそのような手段が選択されているのか、今後明らかにしていく必要があるが、推測するに、受け入れ表明後の「確認要求」や「依頼の繰り返し」は、例えばトルコ人が解釈するかもしれないような「念押し」や「疑い」ではなく、感謝に近い行為なのかもしれない。仮にそうであるとすれば、例6の366X, 368X, 370Xの「うん」「いいよ」「はい」(表2の受け入れ表明の（ ）内63件がこれに対応する)なども感謝への返答として機能している可能性がある⁷。詳細は今後の課題とし、ここでは事実の指摘のみにとどめる。

6 「受け入れ再表示」「依頼の繰り返し」はそれぞれ表2の「受け入れ表明」「依頼表現」の（ ）内に対応している。

7 日本人学生の会話には「ありがとう」という明示的な感謝に対しても「はい」という返答があった。

5. まとめと今後の課題

本調査から、明らかになったことは以下のとおりである。

- (1) 日本語会話はトルコ語会話に比べ同じことの繰り返しが多く、実質的な内容に乏しい。
- (2) 被依頼者の行動は日トで大差はなかったが、依頼者の方には大きな違いが見られた。日本語会話では直接的に依頼をし、トルコ語会話では相手の状況を何度も確認したり、自身の事情を詳細に説明したりして間接的に依頼をする傾向にあった。
- (3) 日本語会話では被依頼者が「受け入れに対して障害になる事情」を述べた後も、直接依頼表現を用いて再依頼が行なわれたが、トルコ語会話では同じ状況で直接依頼表現は使用されなかった。
- (4) 依頼表現形式に関しては、日本語会話では直接形が、トルコ語会話では間接形が多く使用された。
- (5) トルコ語会話では依頼者の状況やそれに至る事情、予測される結果などが詳細に説明され、それらへの理解が依頼の受け入れに結びつくと考えられているようだが、日本語会話では直接依頼を繰り返すことが受け入れに結びつくと考えられているようである。
- (6) 「受け入れ後の感謝とその返答」については、トルコ語会話では定型の挨拶が行なわれたが、日本語会話ではそれは少なく、一見依頼のやり直しのようやりとりが見られた。

この結果から考えると、日ト間の異文化間コミュニケーションにおいて様々な摩擦が起こる可能性がある。日本語会話ではトルコ語会話に比べて、少なくとも親しい間柄の場合、依頼の賦課による妨害の力を緩和する方略がそれほど用いられていないように思われる。よって、日本人の依頼者が詳細な「情報提供」や「状況確認」をせずに「依頼を導入する表現」や「依頼表現」を用いて明示的に依頼することに、トルコ人はとまどい、日本人を一方的で押し付けがましいと感じることが考えられる。また逆に日本人にとっては、トルコ人の依頼者が「情報提供」や「状況確認」のみをし、依頼を明示しないため、依頼がなされていることに気がつかない可能性がある⁸。

ここで明らかになった結果は、トルコ人である筆者が日常生活において日本人学生に対して抱いていた印象を裏付けるものであった。それに筆者の経験を重ねると、日本語学習者（特にトルコ人）は、日本語母語話者の中でそれほど親しくない人や目上の人と話す時には、敬語を使うことによって円滑な人間関係を作ることができるが、親しい間柄になるにつれ、その相手との接触の仕方に困難を感じているのではないかと思われる。その点で、本調査の結果は日本語教育、特にトルコ人日本語学習者に対する指導のための一つの有益な資料を提供することができたのでは

⁸ 猪崎（1999）は、日本人とフランス人の依頼会話を分析し、フランス人の間接的な依頼が日本人に理解されないことを示している。本稿のトルコ人の行動は猪崎（1999）のフランス人の行動に類似している。

ないかと思われる。

ところで、本稿で述べてきたことは、従来日本人の行動として指摘されてきたことと必ずしも整合しない、むしろ正反対の印象すらある。このような結果になった理由として、会話参加者の特性⁹や設定された場面、あるいは比較対象として選んだ国などいろいろ考えられるが、親しい友人同士という設定の会話であったことが大きな要因になっていると思われる。同様の間柄で、本稿と類似の結果を示している研究もある（田中他 2004, 阿部他 2006）。筆者たちにはどちらの行動がより事実に近いかということより、どちらの行動も日本人の言語行動の一面を表していると考えの方が適切であるように思われる。今後これらを互いに関連づけることが重要であろう。その際、日本語会話に特徴的であった「繰り返し」現象が何らかのカギになるのではないかと考えられるので、その機能について十分な解明が求められる。その上で日本人の行動として一見正反対に見えるこれら二つの傾向を、互いに矛盾なく説明できるより大きな枠組みが求められるが、それは今後に残された課題である。

参 考 文 献

- 阿部加奈子／大浜るい子 (2006) 「謝罪」の日中比較 —謝罪の必要が生じた事情の差異に着目して— 『社会言語科学会第 17 回大会発表論文集』, 108-111.
- 猪崎保子 (1999) 「依頼」会話に見られる『優先体系』の文化的相違と期待のずれ—日本人とフランス人日本語学習者の接触場面の研究— 『日本語教育』 104 号, 79-88.
- 大浜るい子 (2006) 『日本語会話におけるターン交替と相づちに関する研究』 溪水社
- 岡本真一郎 (2001) 『ことばの社会心理学』 ナカニシヤ出版
- 巖 廷美 (1999) 「発話機能から見た日本語と韓国語の依頼の構造とストラテジー—依頼談話完成テストの結果から—」 『社会言語科学会第 4 回研究大会予稿集』, 70-75.
- 田中典子／ヘレン・S. = オータニー／エレン・グレイ (2004) 「私のせいじゃありません！」日本語・英語では、いわれない非難にどう応答するか」ヘレン・S. = オータニー編著 『異文化理解の語用論』 研究社, 57-83.
- 柳 慧政 (2004) 「日韓の依頼談話の対照研究—談話構成の面から—」 『社会言語科学会第 14 回大会発表論文集』, 196-199.
- 梁 長歳 (1999) 「日中大学生の敬語行動の対照研究—「依頼表現」を中心に—」 『社会言語科学会第 4 回研究大会予稿集』, 76-81.
- レヴィンソン, S.C. (1990) 『英語語用論』 安井稔, 奥田夏子訳, 研究社出版
- Beebe, L., T. Takahashi and R. Uliss-Weltz (1990) Pragmatic transfer in ESL refusals, in Scarcella, R., E. Andersen and S. Krashen (eds.), *Developing communicative competence in a second language*, Newbury House, 55-73.
- Blum-Kulka, S., J. House and G. Kaser, eds. (1989) *Cross-Cultural Pragmatics: Requests and Apologies*. Norwood, New Jersey: Ablex.
- Dikilitaş, K. (2004) *A Comparative study into acquisition of politeness in English as a foreign language*. Unpublished MA Thesis Çanakkale Onsekiz Mart University, Institute of Social Sciences.
- Işık, H. (2003) *An Investigation on Customer Interactional Principles and Face-Threatening Speech Act Perform-*

⁹ 本研究の対象となっているトルコ語母語話者は、留学中の日本語学習者である。データの妥当性を図るため、日本語を学んだことのないトルコ語母語話者からもデータを収集する必要がある。

- ance in Service Encounters: The Case of Turkish and English*. MA Thesis Department of Foreign Language Education Middle East Technical University.
- Kahraman, B. (2006) *The formal properties of request expressions in Japanese*. *The Turkish Yearbook of Asia-Pacific Studies*, 178-199.
- Rintell, E.M., and Mitchell C.J. (1989) *Studying requests and apologies: An inquiry into method*. In S. Blum-Kulka, J. House, and G. Kasper (Eds.), *Cross-Cultural Pragmatics: Request and Apologies*, Norwood, NJ: Ablex, 248-272.